

# 露出倍数表

接写リングE<sub>2</sub>, 接写リングK  
ベローズアタッチメント用

## 接写における露出倍数

(TTL測光の場合は考慮する必要はありません)

ニコンF2フォトミック、F2フォトミックS、ニコンフォトミックFTNファインダーやニコマートEL、FTNなどTTL測光の場合はフィルム面に達する光を測定するので、以下に述べる露出倍数を考慮する必要はありません。(もちろん被写体の状態などによっては多少修正を要する場合があります。)しかし、TTL測光方式を用いないときには、撮影倍率に応じた露出倍数を算出して、これによって撮影の際に露出を加減しなければなりません。

一般に露出倍数Kは  $K = (1 + M)^2$  (Mは撮影倍率)

の式で表わされます。そして、マイクロニッコールやベローズ用ニッコールなどを使用するときは、この式がそのまま適用されます。

しかし、一眼レフ用の逆望遠型(レトロフォーカスタイプ)の広角レンズや望遠型(テレタイプ)の長焦点レンズでは、この式をそのまま用いることはできません。これは光学上の系数 $\psi$ (入射瞳と射出瞳の径の比)を考慮に入れた次式を用いる必要があります。

$$K = \left(1 + \frac{M}{\psi}\right)^2 \quad (\text{レンズ正方向のとき})$$

$$K = \frac{1}{\psi^2} (1 + \psi \cdot M)^2 \quad (\text{レンズ逆向きのとき})$$

ここに示すグラフは、各種のレンズについてこの式を用いて計算した値によるものです。

このグラフを用いて、撮影倍率に応じた露出倍数をお求めください。

**Nikon** 日本光学工業株式会社

本社 100 東京都千代田区丸の内3-2-3(富士ビル)  
大井製作所・140 東京都品川区西大井1丁目6番3号





